

玉鋼十の刃たち展

題字 ぼたまる雪

玉鋼だけではない、日本刀の世界

令和8年

5/23
▼
5/24

短刀 銘 以流星鐵 広康作 星燈
撮影 株式会社大塚巧藝社 内田欣範

星燈

会場 銀座 蔦屋書店 (GINZA SIX 6階)
〒104-0061 東京都中央区銀座 6-10-1
最寄り：東京メトロ「銀座駅」A3出口

時間 午前10時半から午後9時まで
(24日の最終入場は午後6時30分まで)

料金 無料

Web サイト <https://foundation.gunjo.org/ja/>

はじめに

玉鋼は、砂鉄と木炭を用いた「たたら製鉄」によって生産される、純度の高い鉄です。日本刀の主要素材として古来より用いられてきました。

一方で、日本刀の中には玉鋼以外の鉄を混ぜて作られるものも存在します。本展示では、その中から、宇宙から飛来した隕鉄を混ぜた「星燈（ほしあかり）」、戦艦「陸奥」の防禦鋼板の鉄を混ぜた「青海波（せいがいは）」、戦艦「三笠」の主砲残鉄を混ぜた「三笠刀（みかさとう）」の三振の日本刀をご紹介します。玉鋼のみで作られた日本刀とは一味違う、独特の風合いと背景を持つ日本刀の魅力をお楽しみください。

私ども一般財団法人群青財団は、情報通信技術および近代海事史に関する記録を風化や散逸から守るため、その保存と継承に取り組んでいる財団です。会場では、出陳刀剣に関連する史資料の展示も併せてご覧いただけます。

令和8年5月23日
一般財団法人群青財団

出陳刀剣の紹介

①短刀 銘

<表>以流星鐵 広康作

<裏>星燈

刃長 28.0cm

個人蔵（V T u b e r ぼたまる雪 所蔵）

本作は令和6年に備前長船の安藤広康刀匠の手によって鍛刀されました。

アフリカのナミビア共和国で産出した「ギベオン」という隕鉄と玉鋼を3：7の割合で混ぜて鍛刀しています。隕鉄を用いた刀の特徴として、地鉄（じがね）や刃文に特徴的な層状の模様が見られます。これは隕鉄に含まれる鉄やニッケルの影響であり、本作も木材を縦に割ったような層状の模様がみられます。

姿は反りが少なく、身幅も細い、鎌倉時代の姿をやや伸ばした形状です。

（所有者より）

日本刀と普段かわりがない層へ日本刀を購入することに興味を持ってもらうべく、配信活動で得た収益を購入費用の一部に充てました。号の命名はSNSなどで募集し、多数の候補の中から「星燈（ほしあかり）」という名称が決定いたしました。

宇宙から飛来した星と地球という星が交わり日本刀として生まれ変わったこの一振が、闇夜を燈し未来を切り開きますように。日本刀はいいぞ。

②太刀 銘

<表>備前國長船住弘次作 柳匠堂重恒彫

<裏>以戦艦陸奥防禦鋼板鍛 令和元年牡丹華

(号 青海波)

附 波浪図銀地一重鍔

刃長 71.1cm

一般財団法人群青財団 管理

本作は令和元年に備前長船の満足弘次刀匠によって鍛刀されました。戦艦「陸奥」の防禦鋼板（ぼうぎょこうばん）と玉鋼を1：9の比率で鍛刀しています。

鍛刀の前に行われた火花試験の結果から、使用された陸奥鉄にはニッケルとクロムの含有率が高いことが推測されています。

刀身は「秋刀魚を彷彿させる輝きがある」と形容され、玉鋼のみで作られた刀に比べると全体がやや青みがかっていることも特徴の一つです。

姿は「小烏丸」という刀剣を模した小烏丸造りと似ていますが、元帥刀に由来しています。一般的な小烏丸造りと元帥刀の異なる点は、鋒が鋭く鍔が棟側に寄っているところです。刀身には樋（ひ）が彫られており、手に持ってみると見た目より軽やかな印象を受けます。

刀身彫刻は装剣金工師の片山重恒氏が担当しました。「為萬世開太平（萬世の為に太平を開く）」という刀身の碑文は「将来のために平和への道を開く」という意味を持ち、「太平の世がいつまでもつづくように」という想いが込められた号である「青海波」と併せて恒久的な平和への願いが込められています。

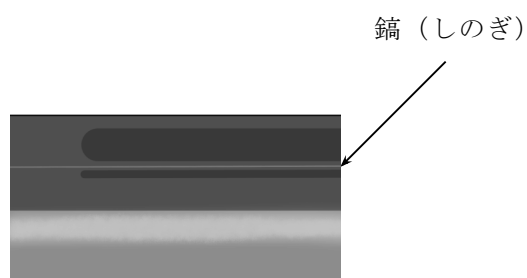
佩裏には「桜に錨」の彫刻がなされ、鍔を装着すると錨と波面により海のイメージが一層強くなります。平和な未来への「抜錨」か、戦艦（動乱の時代）から日本刀（平和な時代）への「投錨」かは見る者の感性に委ねられています。

各部の名称



写真提供：刀剣画報編集部（株式会社ホビージャパン）

写真撮影：羽田洋



③短刀 銘

<表>三笠

<裏>秀明

刃長 23.0cm

個人蔵

本作は日本製鋼所室蘭工業所（現在の室蘭製作所）にある瑞泉鍛刀所の堀井秀明刀匠の銘が裏に彫られています。

戦艦「三笠」は旧日本海軍の連合艦隊の旗艦として有名ですが、明治37年に起きた黄海海戦で二連装主砲の一門が破壊されました。昭和初期に戦艦「三笠」の主砲の鉄から日本刀を作ろうという動きが起こり、昭和3年から昭和7年の短い期間で短剣や長剣が多数鍛刀されました。本作もそのうちの一振です。

鎌倉時代の短刀の姿を模しており、細身の刀身もあいまってスッキリとまとまった印象を受けます。

刃文は直刃を基調とした細直刃（ほぼまっすぐな刃文がより刃側に表れている）になっており、地鉄の美しさと作者の技巧をより引き立てています。

太刀「青海波」がYouTube番組でとりあげられたことをきっかけに、錆の見られた本作を所有者が研磨へ出して本来の美しさを取り戻し、「玉鋼+αの刀たち展」で青海波と並べて展示される運びとなりました。

また、本展示で展示されている額と写真は、東郷元帥から所有者の親族へ三笠刀と同時に贈られた貴重な資料です。

（参考URL）

【コラボナイト1日目】一夜限りのコンビ結成！プレゼンの相方はルーレットで決まる #特化Vコラボナイト【大型コラボ】

<https://www.youtube.com/live/ivYORLHHQis>

